

活動方針(案)

今月、歴史的な皇位継承によって平成から令和の時代へ新たな幕が開かれました。我々は時代の大きな転換点に立ち会うことの意義と誇りをかみしめ、皇室への尊崇と親愛の念をより強める機会を得られたことは喜びに堪えないことでもあります。

立党から 60 有余年我が党は僅かな時期を除き常に責任政党として国家国民に寄り添いながら諸課題、難局を乗り越えてきたことにより今の繁栄が得られたものと確信するものであります。

そしてこの姿勢は新しい時代となった現在から将来においても不変であり、新たな時代を切り拓いてゆく礎としなければならないものであります。

本年は統一地方選挙と参議院選挙が行われる、12 年に一度の政治決戦の年であります。新しい元号になり、新たに始まった時代においても安定した政治基盤のもとで責任を果たしてゆく決意を固め戦いに臨むこととなりました。

その前半となる県議会議員選挙をはじめとする統一地方選挙は、4 月 7 日に投票が行われましたが、県議会議員選挙では所期の目的を果たすことができ、政令新潟市議選においても同様の結果となりました。

このことは、来るべき参議院通常選挙向けの支援態勢の大きな柱が構築されたものと思われるものであります。

わが党は、他のどの政党も持たない支部組織を県内に張り巡らしていることと特定の階級や団体に左右されることのない国民政党であることの自覚と誇りを持たなければならない。その上で、支部組織と地方議員が両輪となり、新しい時代を切り拓くのはわが党において他に無いという確信のもと、間近に迫った参議院選挙の必勝を期して挙党一致戦い抜く決意を新たにします。

そこで次の活動方針を掲げ組織活動を展開するものである。

- 1 青年、女性組織の整備強化に力を注ごう。
- 2 選挙に向けた広報活動を強化しよう。
- 3 参議院選挙を勝ち抜こう。

1 青年、女性組織の整備強化に力を注ごう。

党本部は全党的な組織活動の柱として「120万党員獲得運動」の目標達成に向けて継続的に展開している。県連としても各選挙区1,000人党員の実現までは道半ばであります。今年中の目標達成を期したいところであります。

一方、柔軟性のある党組織の構築には青年組織と女性組織の強化が不可欠であることは言うまでもありません。

青年組織は、青年層・若年層への働きかけにより組織のすそ野を拡大させることが肝要であります。近年、青年・若年層の政党支持率がわが党を支持する傾向が強まっていることは大変歓迎すべきことであり、この機を逃すことなく積極的に運動を展開しなければならない。従来から、県内各地に出向き当地の青年層と意見交換を行うとともに、パンフレットの作製による広報活動また「政治学校」を毎年開設し新たな同志の育成にも取り組んでいるところであります。

女性局においては、今回統一地方選挙での女性候補の一人でも多くの当選を期して選挙戦を戦ってきたことは大きな意義がありました。また、最近大きな社会問題となっている児童虐待防止活動「ハッピーオレンジ運動」についても継続して展開しているところであります。

これらと合わせ街頭活動、女性対話集会など地道な活動も積極的に展開させなければなりません。

これら青年組織活動、女性組織活動はまさに党組織を前進させる両輪としての存在であることを党内外に知らしめながらその責務を果たすため、青年女性組織の組織強化活動に重点を置くものである。

2 選挙に向けた広報活動を強化しよう。

来るべき参議院選挙に向けてわが党が推し進めようとする諸政策や我々が目指す方向性などをわかりやすく示すことは党への理解を深める大きな手段となります。

一人一人が関心を持つ政策課題は全体的に共通した課題が存在することもあるれば他方、地域性であったり年齢そしてまた職業別であったり色々な切り口がある中でそれぞれに対応できるような広報の媒体が求められていることは現実のものとなってきています。

県連としては新聞やテレビなどでは伝わりにくい層の人たちに重点を置き、近年積極的に取り組んでいるネット動画なども党本部のものと同リンクさせながら効果的の広報体制を強化して参ります。

同時に、従来型の地域住民と直接触れある街宣活動も継続して展開するとともに、候補者自身のPR活動も県連としても連携しながら強力に推進して行くものであります。

3 参議院選挙を勝ち抜こう。

4月の党一地方選挙の後を受けて行われる第25回参議院通常選挙までほぼ2か月というところに迫ってきました。3年前の新潟県選挙区では定数が1減少する中で、自民対野党共闘という構図での厳しい選挙戦を強いられた結果2,279票というわずかな差で苦杯を喫するという大変残念な結果となったことは慙愧に堪えません。

我々はその屈辱を決して忘れることなく今回の参議院選挙に挑むバネして選挙態勢を整え、前回の借りを返すという固い決意で臨まなければなりません。今回の選挙は、本県も含め全国で32ある1人区の帰趨が党全体の勝敗を左右することは言うまでもなく、本県は、前回の結果から1人区選挙区の中でも重点選挙区に指定されていると同時に選挙結果如何によっては選挙区の参議院議員の存在まで危ぶまれるような状況になってしまうことを我々は強く認識しなければなりません。

恐らく前回同様自民党対野党共闘という選挙戦になることは予想するに難しくありませんが、決して前回と同じ轍を踏まないという決意のもと挙党一致で来るべき参議院選挙を勝ち抜くものであります。